みんなで考える市の憲法づくり

連載 自治基本条例の制定に向けて❶

目指すは住民自治の確立

住民が主体となったまちづくりを進めるため、市は「自治基本条例」の制定に取り組んでいます。この条例は市の憲法とも言うべき指針を定めるもので、市民の皆さんの日常生活にも直結するものです。これからのまちづくりに、なぜ自治基本条例が必要とされているのでしょうか。その理由を今月から連載しますので、一緒に考え、「まちの憲法」づくりに一緒に取り組みましょう。

もちろん課題を見つけ、解決に取り組むためには、行政だけの力では限界があります。住民が中心・主体となった住民自治を確立し、住民と行政が役割分担をしながら課題解決に当たることが必要になっています。

このような背景の中、市は「住民自治の確立」を目指すため、自治基本条例を定める取り組みを始めたのです。

地域の課題は、地域自らの意思と責任で解決することが求められる

国の権限を、県や市町村といった地方自治体に移す地方分権が推進されています。国と地方との関係は、地方が国の通達や指導に従う立場から、対等で、お互いが協力し合う間柄へと変化しています。これは、地方の課題を国に頼らず、地方に住む人自らの意思と責任で解決に取り組むことが、これまで以上に求められることを意味します。

今、まちづくりに対する住民ニーズも、単なる道路整備や施設の整備だけではなく、多様化・高度化しています。県や市町村（行政）には、このような地域独自の課題を、自らの意思と責任で解決していかなければなりません。

「住民自治の確立」とはどういうこと？

「住民自治」という言葉だけではなかなかイメージがわかないと思います。

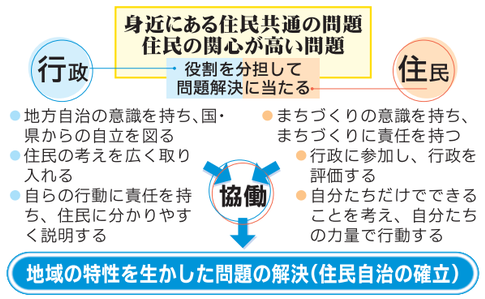
わたしたちは、日々の生活において、暮らしやすさを求めて何かを必要としているはずです。

健康のこと、仕事のこと、教育のこと、交通手段のことなどで「こうなったら便利だろうな」「ああいう問題があるな」と思うことがあると思います。問題は自分1人だけで解決することばかりではないはず。これらの問題を解決しようとすれば、社会とのつながり、つまり「まちづくり」につながっていくのです。

そこには住民によるまちづくり、町内会・自治会によるまちづくり、市によるまちづくりといったさまざまな場面があります。住民、町内会・自治会、市それぞれが考え、それを持ち寄り、共に行動して解決していくことが「住民自治」です。

住民、町内会・自治会、市の役割分担が明確になり、共にまちづくりに向けて肩を並べて歩む姿（右図）が実践されたとき、住民自治が確立されたと言えるのです。

7月号ではまちづくりについて考えます



市の出来事から

衣川・あゆみ園に子どもたちの声

時計台の三角屋根が特徴の外観（写真上）、元気良く園歌を歌う園児たち（写真右）

衣川幼稚園と衣川保育所が併設される幼保一体化施設・あゆみ園の落成式は6月4日、同園で行われ、来賓や保護者ら150人が出席しました。

式典では、初代園長の菅原昭子園長が「園児たち一人一人の花を咲かせることができるよう、職員と保護者が力を合わせ一歩一歩進めていきたい」とあいさつ。協力者への感謝状贈呈などが行われました。最後に4・5歳児が園歌やお礼の言葉などを披露すると、大きな声がホールいっぱいに響き渡りました。

あゆみ園は、幼児教育の充実を目指し旧衣川村が整備を計画していたもので、市内では旧江刺市が整備したわかば園に次いで2個所目になります。

同区古戸地内に完成した園舎は、木造平屋建て。延べ床面積が1209平方㍍で、職員室を中心に6つの教室、ホール、子育て支援センターなどが配置されています。木材がふんだんに使用され、66％が県産材（うち約3割が市内産）で賄われています。

同園には6月1日現在、幼稚園児44人、保育所児55人の合計99人が在籍。0歳児から5歳児までがそれぞれ年齢別に分かれてクラスを作ります。3歳児以上は幼稚園児と保育所児が同じ教室で、同じ内容の教育を受けています。

水沢の横山さんと菊地さんが百歳

横山ハルさん（5月8日）

5月は水沢区の2人の市民がめでたく100歳を迎えました。

横山ハルさん＝字蓬田＝は、ことし1月に体調を崩すまで、毎日朝と昼に野菜や花の手入れをしていた働き者。

菊地テルさん＝宮下町＝は、90歳近くまで江刺区南大通りで商店を切り盛り。趣味の俳句を今でも続けています。

2人には相原正明市長、原田守水沢区長から記念品が手渡されました。

菊地テルさん（5月14日）

フロンティアパークに6社目立地

調印後に手を取り合う西村社長（左から3人目）ら

江刺フロンティアパークに進出を決めたジャパンネットトレーディング株式会社（本社東京都、西村専次代表取締役社長）と市との立地調印式は5月7日、ホテルニュー江刺新館で行われました。

調印式には、同社の西村社長をはじめ、県、市関係者ら14人が出席しました。席上、西村社長と相原正明市長が協定書に署名、押印して交換後、固い握手を交わしました。

同社は前沢区や衣川区に製造拠点を持つ小岩金網㈱の子会社。新工場では、重油などの化石燃料に特殊技術で水などを混ぜ、乳濁液化したエマルジョン燃料を製造。完全燃焼に近い燃焼が可能で、省エネと窒素酸化物などが少ないクリーンな燃料としての効果が見込まれています。